

組織破壊攻撃を粉碎しよう!



86. 11. 12
No. 2404

国鉄千葉動力車労働組合
千葉市要町二一八 (動力車会館)
(鉄電)二九三五ノ六 (公衆)〇四七二(22)七二〇七

仲間を信じ、裏切り者を許さず闘い抜こう。(302)

「良識ある職員」とは何か

さらに、われわれは、当局の国労に対する申し入れの中で、「鉄道事業の再生を図るため、努力している良識ある職員」との表現があることについて、看過することはできない。

ほんの二年前まで、「国鉄職員」は、職制であろうが組合員であろうが、ほとんど全員が、分割・民営化に反対であることを公然と明らかにしていたのではないか。

そして今でも、ほとんど全部の「国鉄職員」が、本当は、分割・民営化に反対であることも、公然たる事実ではないか。

自己保身のために

ひっくり返った国鉄官僚——
「杉浦総裁」登場以降、自己保身のために、手のひらを返したように「分割・民営化賛成」にひっくり返った一部国鉄官僚を「良識ある職員」というのか。

セクト的延命に走った動労革マル——

「国労解体」の自民党方針にとびついて、セクト的延命に走った動労革マルと、それに屈服した動労組合員が「良識ある職員」なのか。
まさに、噴飯ものとはこのことである。

変節と裏切りのオンパレード——

「国労が半数以下」という現実、情勢が悪いから「ひっくり返った国労内の一部ダラ幹も含めた、このウス汚い変節と裏切りに、多くの「国鉄職員」が、さまざまの葛藤はありつつも、職業的良心や思想・信条に人間の生き方までも売り渡し、屈服してしまったということであって、「良識ある職員」などというものでは決してない。

当局がデッチ上げた——「技能協」

動労千葉は、労働組合が闘いを放棄するならば、必ずこのような地獄の状況にタタキ込まれるというところを見極め、昨年十一月、第一波ストに決起し、二月第二波ストも含め、ひとりの脱落者もなく闘い抜いてきた。

この動労千葉の団結に恐怖する千鉄当局は、二月～四月段階から、学士の部課長が先頭に立ち、動労千葉所属の局課員に対して、「動労千葉を脱退しなければ仕事をやらせない」という形で脱退強要を行い、「千葉鉄道技能人協議会」なる御用組合のデッチ上げに参画させたことを皮切りに、陰然たる組織介入を開始した。

はね上る利己主義者

当初、「当局のやり方はおかしい。しかし、部長(課長)の言うことをきかないと局にいられないから」「千技協に入っても動労千葉を裏切らない」と言っていた者たちの中から、行方某のごとく、告げ口、スパイに類する卑劣な行為を、上役に対するゴマスリとして、積極的にやる部分が出てきたことを、われわれは、しっかりと見極めなければならぬ。

こういふ行方のごとき利己主義にこり固ったはね上り者を、当局は「良識ある職員」というのか。日本語では、こういふ行動をとる者は、「変節漢」「スパイ」「裏切り者」「ゴマスリ」「利己主義者」というのだ。辞書を引いてみる!

陰険、狡猾、卑劣

組織破壊攻撃は、「分割・民営化」十万人首切りについて、職場・生産点で何の正義性をも主張できないが故に、

「もう情勢がこここまでできたんだから……」
「自分のことで精いっぱいだ。他人のことなど考えていられるのか」

「友達や組合のことは目をつむって……」
「これが最後のチャンスだ(いま、言うことをきかないと「四万一千人」だぞ)」という形で、極めて陰険な形で行われている。

職場の片スミで、「教育」の中で、あるいは家庭にまで押しかけて、タタキアゲの下級職制が、「俺もいつクビになるかわからないんだ」などという「泣き落とし」も含めて、自分の「成績」をあげるために、国鉄労働者に襲いかかっているのだ。いま、全ての国鉄労働者が、この陰険で狡猾で卑劣な汚らしい攻撃とどう対決するのかを突きつけられている。

(改号へつづく)